

公民館ふるさと教育推進部門

フィールドワーク（地域学習）を通じて学んだ『志』

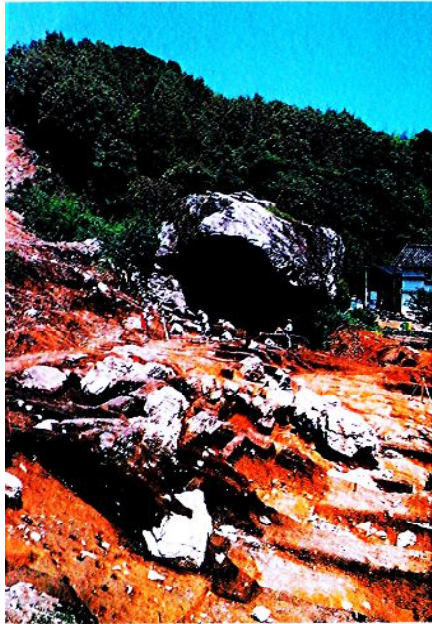
岡豊歴史たんけん



土佐史談会
岡豊歴史たんけん隊



おこ
**岡豊には
2万年前から人がすんでいた！**



奥谷南遺跡

おくたにみなみ
奥谷南遺跡はおよそ2万年前、岡豊に人が住んでいたでしょう。ナイフ形石器を使った狩人たちでした。この時代は旧石器時代で、まだ土器を知らず、家族的な小さな集団で生活していたでしょう。次の縄文時代になっても人は住み続けていました。すぐ近くの「栄工田」にも、「奥谷北」にも人々は土器や遺物を残しています。旧石器時代の頃から、さらに1万年続いた縄文時代にも、人々が住み続けたことは、岡豊が最高の環境であったことを物語ります。高知の歴史は「岡豊」からはじまると言えるでしょう。

岡豊歴史



岡豊には
長宗我部氏のお城があった！

ちょうそかべし
岡豊城には長宗我部氏の城がありました。平成19年7月には国史跡となり、調査され、整備されています。城は高さ97mの東西に長い丘陵の上であり、頂上からは香長平野を見下ろし、南には遠く太平洋も望めます。東から南にかけては、笠ノ川川と国分川が東の麓で合流し、国分川は河川の交通にも便利であり、自然の堀の役割もして浦戸湾に流れます。土佐を統一し、四国をおさめ、「天下を心に懸けた」長宗我部元親の城にふさわしいものです。





岡豊には

たくさんの古墳があった！

岡豊にはたくさんの古墳があります。

4世紀中頃の長畝^{ながつね}3号墳は、当時の有力者の墓でしょう。有力な豪族の墓である古墳があるということは、岡豊の開発がどこよりも進んでいたでしょう。

高知の3大古墳とされる小蓮^{こはす}古墳は、この付近で最高の権威をもつ首長のお墓です。

さらに標高125mの舟岩の尾根に22の舟岩古墳群があります。高知県でこれくらい多くの古墳が集まっているところはなく、ここは高知の古墳群を代表的するところです。

たんけん



岡豊には

長宗我部氏ゆかりの土地があり、
ゆかりの人たちもすんでいた！

岡豊には早くから長宗我部氏の城や屋敷がありました。だから城を中心に、狭い土地ですが自分の勢力範囲をもった人たちが住んでいました。

その人たちはそれぞれ「土居（屋敷）」をかまえ、血のつながった分家や、家来たち（被官^{ひかん}）、下人^{げにん}たちを従えて農村集落を作っていました。

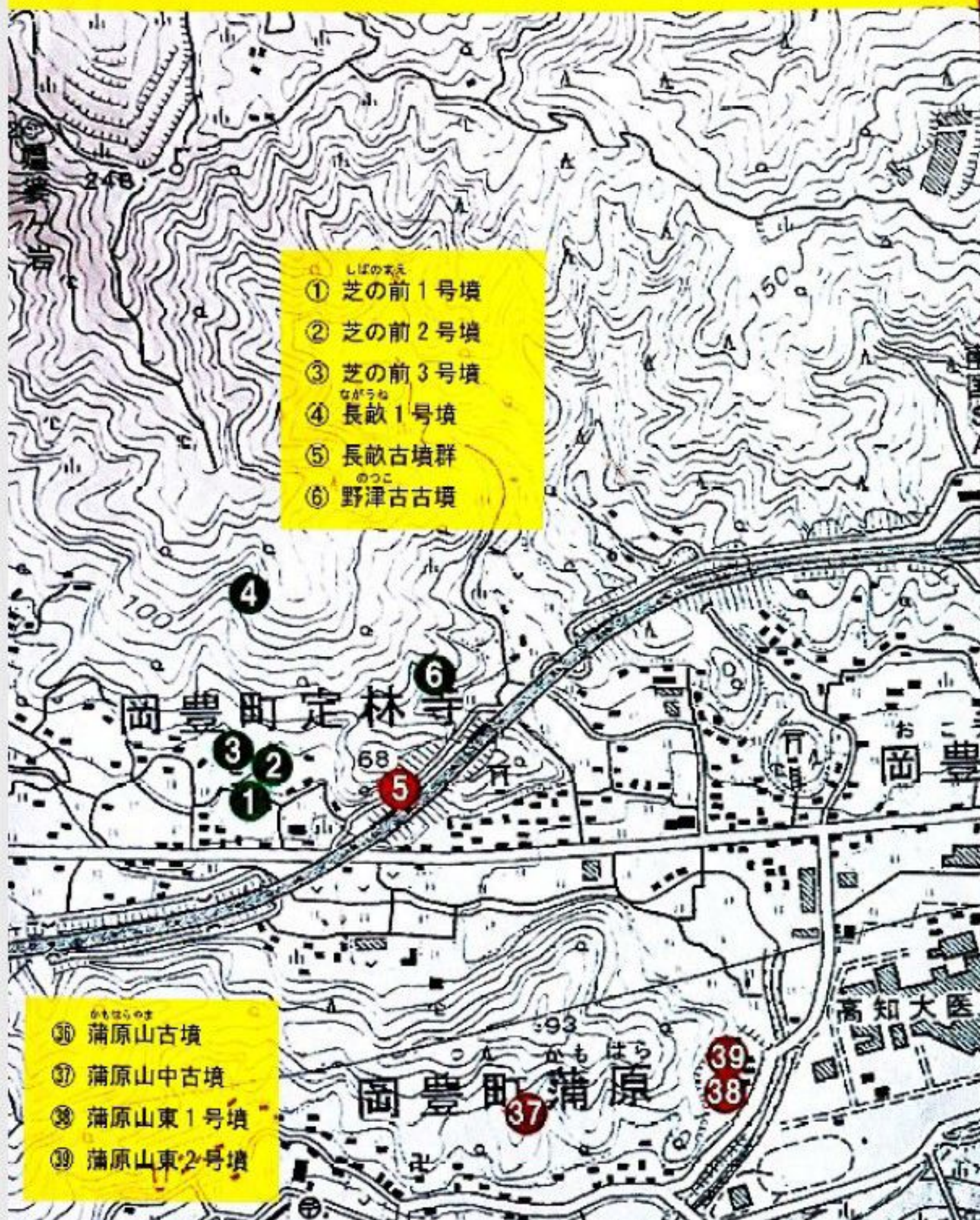
また城下には多くの寺院が建てられていました。長宗我部氏の先祖を祭る寺（菩提寺^{ぼだいじ}）である常通寺^{じょうつうじ}、兼序寺^{かねつぐじ}、瑞応寺^{ずいおうじ}などの寺々をはじめ、滝本寺^{たきもとじ}、定林寺^{じょうりんじ}、清山寺^{せいざんじ}、蓮如寺^{れんによし}、報恩寺^{ほうおんじ}、妙楽寺^{みょうらくじ}などがたち並び、その名はいまでも地名として残っています。





たんけんしよう!

岡豊の古墳



- 赤=開発などでこわされて消えた古墳
- 緑=今でも形や古墳の一部がみえる古墳



（舟岩古墳群）

- ⑫ 舟岩1号墳
- ⑬ 舟岩2号墳
- ⑭ 舟岩3号墳
- ⑮ 舟岩4号墳
- ⑯ 舟岩5号墳
- ⑰ 舟岩6号墳
- ⑱ 舟岩7号墳
- ⑲ 舟岩8号墳
- ⑳ 舟岩9号墳
- ㉑ 舟岩10号墳
- ㉒ 舟岩11号墳
- ㉓ 舟岩12号墳
- ㉔ 舟岩13号墳
- ㉕ 舟岩14号墳
- ㉖ 舟岩15号墳
- ㉗ 舟岩16号墳
- ㉘ 舟岩17号墳

- ㉙ 狭間古墳
- ㉚ 西村古墳

- ⑦ 小蓮古墳
- ⑧ 小蓮2号墳
- ⑨ 小蓮3号墳
- ⑩ 小蓮4号墳
- ⑪ 天神の前古墳

- ㉛ 蔵本1号墳
- ㉜ 蔵本2号墳
- ㉝ 蔵本3号墳
- ㉞ 岡豊城跡古墳
- ㉟ 米内古墳



古墳の中や形をさぐろう！

3世紀の後半ごろから約400年を古墳時代といいます。

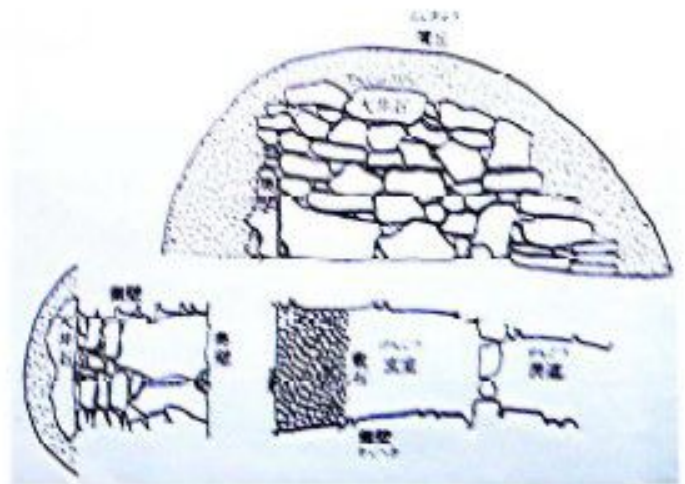
古墳は古墳時代に造られた有力者のお墓で、土を高くもりあげた大きな墓です。高知県内では約220みつけれられていますが、そのうち、南国市に80あり、岡豊地区には42もあります。

古墳が多いということは、古墳のような大きな墓をつくることのできる有力者が多く住んでいたことです。



古墳にはどんな形のものがあつたらう！

形には、まるいもの（^{えんぼん}円墳）、方形のもの（^{ほうぼん}方墳）、
前の部分が方形で、後ろの部分がまるいもの（^{ぜんぽうこうえんぼん}前方後円墳）など、
さまざまな形がみられます。



『21世紀子ども百科歴史版』小学館

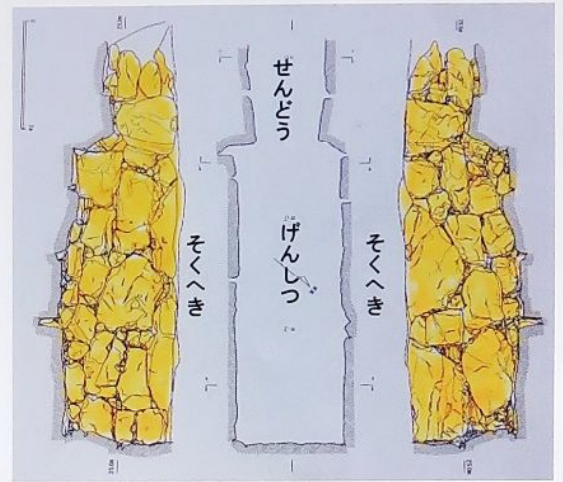
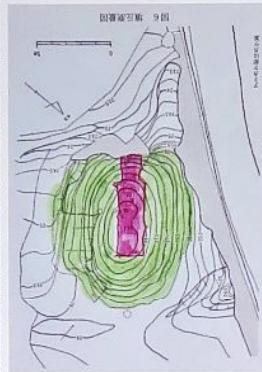


古墳の中はどんなになっており、
どんなものがうめられていたろう！

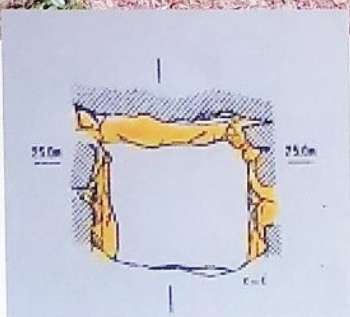
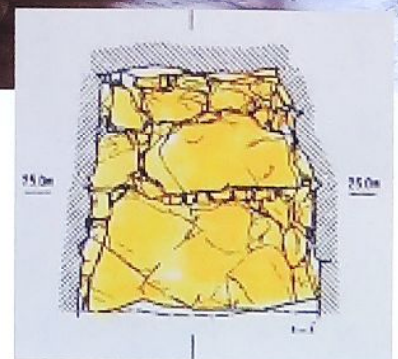
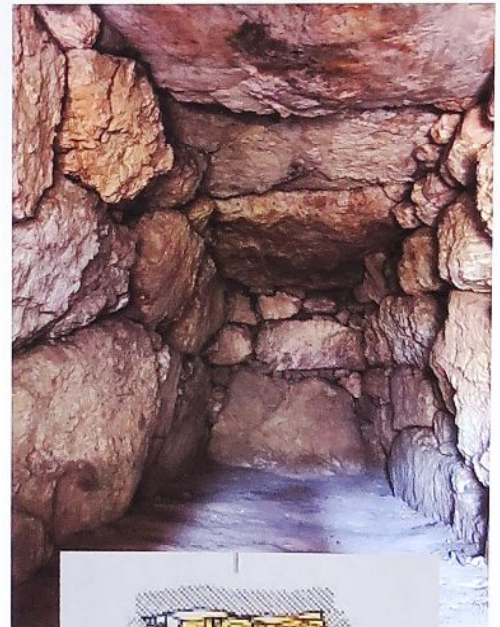
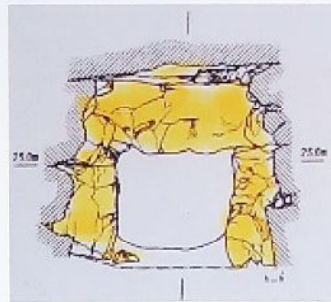
古墳のなかには石で築いた、石の室があり、その中に石や木でできた死者を収める棺かんが入られました。
また死者にささげるものとして、青銅や鉄の武器や馬具、鏡、土器、勾玉まがたまなどがうめられました。
岡豊にある芝の前1号古墳の中を覗いてみましょう。



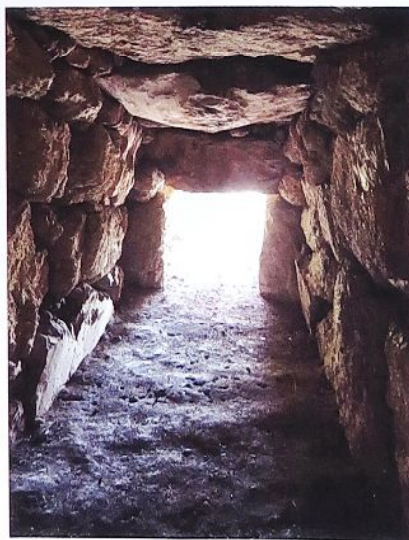
上から見た
古墳の図



裏から見た現在の墳丘ふんきゆう



入口



中から入口を見る

入口から奥壁を見る



歩いて知ろう

岡豊城跡



- ① 「詰」を中核とする一群
- ② 「伝家老屋敷跡」を中心とする一群
- ③ 「伝厩跡」を中心とする一群
- ④ 「高知県立歴史民俗資料館」の周囲
- ⑤ 「開墾された広い畑地(字中尾)」のある尾根の南面
- ⑥ ⑤の北側尾根の南面
- ⑦ 「伝厩跡」西側尾根
- ⑧ 「伝家老屋敷曲輪」尾根先

- うねじょうたてぼりぐん
 敵状堅堀群
- 長く伸びる堅堀(堅堀ライン)
- ある間隔に配置した堅堀群
 ある場所に集中した堅堀群
- たかどるい
 高土塁
- ますがたこぐち
 枡形虎口
- 横堀

◆ 岡豊城縄張図
なわぼりず



高知県立
歴史民俗
資料館

④

⑥

⑤

⑧

②

よいか！
どこを歩き、何を見学したか
しるしをつけ、岡豊城の特色を
知るのだぞ！



岡 豊 城

とよおかやま

岡豊城は標高 97m の豊岡山にあります。

そこに長宗我部氏の城があったことは間違いありませんが、いつこの山に城を造り、その後どのような動きをしたか書き残されたものはありません。元親の祖父のかねつぐ兼序 (19代) のころに、周辺の本山、山田、吉良、大平氏らに攻められ落城したと伝えられています。

元親の父、くにちか国親は岡豊の城をよみがえらせ、元親はやがて土佐一国を支配し、さらに四国の支配もめざしますが、豊臣秀吉に敗れて、土佐だけの支配がゆるされ、城も岡豊から大高坂城 (現在の高知城) に移転させられます。

こうして岡豊城もその役目が終わりました。



城を築く順序

- 1、ちせん地選 = 土地を選ぶ。
- 2、ちどり地取 = 選んだ場所のどこを城に使うか決める。
- 3、なわぼり縄張 = どのような城を築くかの作業 (城の平面プランの作成)
- 4、ふしん普請 = 縄張に従って土木工事
- 5、さくじ作事 = 建築作業

山城の基本的な堀

ほりきり堀切 = 尾根つたいの進入を防ぐために、尾根の鞍部を掘り切る。
たてぼり縦堀 = 堀切を両側の斜面に延長する。

あんぶ

= 斜面の横移動を防ぐ目的で斜面に縦堀を単独で掘るようになる (16世紀代)。

うねしょうたてぼりぐん畝状縦堀群 = 縦堀を斜面に密集させ、ぐん群として斜面をおおい、斜面での自由な行動を妨害する。
(元親は重要な城には巧みにこれを使う)



三ノ段で発掘された土塁・石積み (南より) 礎石建物跡

山城の構の呼び方

りょうせん山頂や稜線 (尾根)、斜面を削って平地 (曲輪) を作り、そのまわりの斜面を削って登りにくい急な崖 (切岸) にします。縁には土塁もあります。城の中心曲輪を詰 (主郭) と呼び、その他の曲輪は二の段、三の段、四の段、あるいは「曲輪 1」「曲輪 2」と順々によびます。

岡豊城跡想像復元図

(高知県立埋蔵文化財センター提供)



犬形土製品

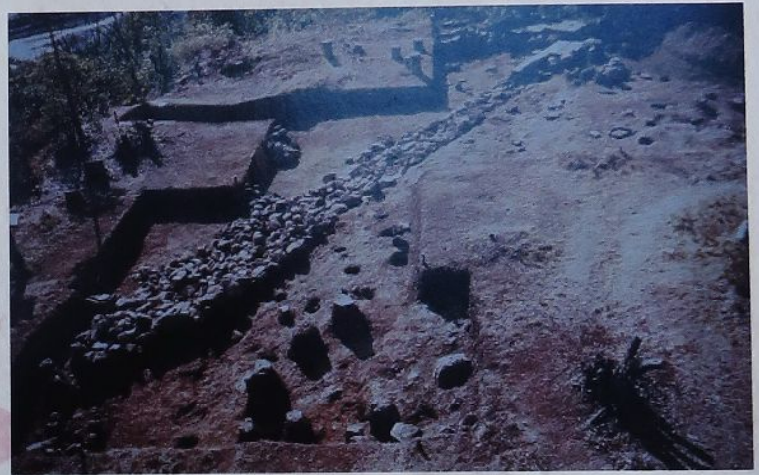
中世の城跡（山城）とその遺構

やまじろ

いこう

「土」と「成」の字を合わすと「城」になります。「土で成る」ものが城です。（石は使わない）土地を削り平らにして住居をつくる。まわりに外からじゃまものがはいれないように堀を掘る。掘った土を盛りあげて土塁とする。削って造った平坦な土地が「曲輪」で、それを「堀」と「土塁」が囲む。曲輪・堀・土塁が中世の城の三要素です。これらをうまく組み合わせ、上手に守り、うまく攻める知恵と工夫が生かされたものが中世の城です。

中世の城の多くは山城ですが、多くは山下の屋敷（土居）とセットになっています。戦のない時は居館（土居）で生活し、戦となれば山城にこもって戦いました。



詰で発掘された礎石建物跡



掘ってわかった岡豊城詰の建物

岡豊城の詰は南北 40m、東西 35m の三角形の曲輪です。ここから 2 つの建物の礎石などが見つかっています。建物の一つは、東西 7.2m (4 間)、南北 10.4m 5 間 (10.4m) で約 75 m² の広さでした。

建物の位置は見晴らしもよく、建物の中にも土台石（礎石）があり、がんじょうな 2 階以上の建物が想像できるものでした。もしかするともう少しのちに建てられるようになる天守のような建物であったかもしれません。そこから文字がある丸瓦も見つかっています。

「おかう之御・・・」
「瓦工泉丞・・・」
「・・・天正三・・・」

と書いてあります。大阪（泉州）の瓦職人が天正 3 (1575) 年に造ったとあります。

この年は長宗我部元親が土佐を統一した年です。岡豊城はすでに、このころほかの城では見られなかった、土台石のうえに瓦をのせた後の天主をおもわす建物が建っていたのです。

中世の城から抜け出た進んだ城であったといえるものです。（織豊系城郭の要素）



天正三年瓦

長宗我部元親

ゆかりの人と土地



① 岡豊城跡

谷忠兵衛の屋敷跡。

元親の土佐・四国攻めにも
かつやく。中村の城主ともなる。

子の彦十郎は戸次川で戦死。

③ 蓮如寺跡・

れんによし
にながわどうひょう

蜷川道標屋敷跡（小蓮）

岡豊にたくさんある寺院の一つ。

蜷川道標の屋敷となる。

④ 伝長宗部氏一族の墓（八幡）

はたよしとし

秦能俊が信濃から土佐に移り、

そかべごう

宗部郷（岡豊付近）に住んで以来

20余代の墓と伝えられる。

⑤ 下野土居（小蓮）

岡豊城の西方の守りを固める。

⑥ 石谷土居

いしがひょうぶ

石谷兵部の屋敷跡（小蓮）

元親は兵部の妹を妻とする。

兵部の娘は元親の長男信親の妻。

戸次川の戦いで信親とともに戦死。

岡豊町定林寺

岡豊町小蓮

岡豊町蒲原

小山

岡豊町中島

岡豊町中島

南国市

きみはいくつ

知っているかな？



⑦ 小野土居 (小蓮)

元親の有力家臣、
おのみんぶのじょう
小野民部丞の屋敷跡

⑧ 小野古城 (小蓮)

小野民部丞の城跡。詰に土塁、
どるい
下には二の段・三の段がある。

⑨ 滝本寺跡 (滝本)

元親時代の栄音や非有は軍事
・内政にかつやく。寺の毘沙
たきもとじ
門堂は長宗我部信親の建立と
えいおん ひゆう
伝えられている。(南路志)

⑩ 千頭屋敷 (小蓮)

元親の有力家臣千頭氏
ちかみ
(仙頭・専当)の屋敷跡。

⑪ 窪添屋敷 (小蓮)

窪添与十郎重吉の土居。
戸次川で戦死とされる。

⑫ 蒲原屋敷 (蒲原)

蒲原又四郎の土居跡。
かもはら
戸次川の戦で一族はじめ
多くの家来戦死。

⑬ 桑名土居 (常通寺島)

長宗我部3家老の一人桑名氏の
土居跡。桑名弥次兵衛は長宗我
部滅亡後、藤堂高虎の家臣とな
る。夏の陣で戦死。
とうどうたかとら

⑭ 常通寺跡 (常通寺島)

長宗我部18代が建立した
長宗我部氏菩提寺。岡豊城落城
の時、焼失し国親が再興。
元親は土佐郡石立村に、後に
小高坂に移す。
じょうつうじ

⑮ 中島土居 (中島)

中島大和守親吉の土居跡。
国親・元親等とともに
かつやく。秦泉寺城主になる。

⑯ 中内土居 (中島)

長宗我部3家老の一人。
中内藤左衛門の土居跡。
岡豊城の西南の重要拠点。

⑰ 小籠 (江村) 土居 (小籠)

江村備後守親家の土居。

⑱ 吉田土居城 (吉田)

吉田次郎左衛門の土居跡。
長宗我部氏の片腕。屋敷地を
土塁が囲む。岡豊城外防衛の
拠点として重要地。

⑲ 廣井土居城 (廿枝)

廣井右衛門尉が居住し、岡豊
城外防衛の拠点として重要地。

⑳ 土佐国分寺 (国分)

金堂(重要文化財)は永禄元年
(1558)元親の再建、寺跡
は国史跡。

㉑ 金子氏屋敷跡 (定林寺)

元新居浜金子城主
一族の屋敷跡

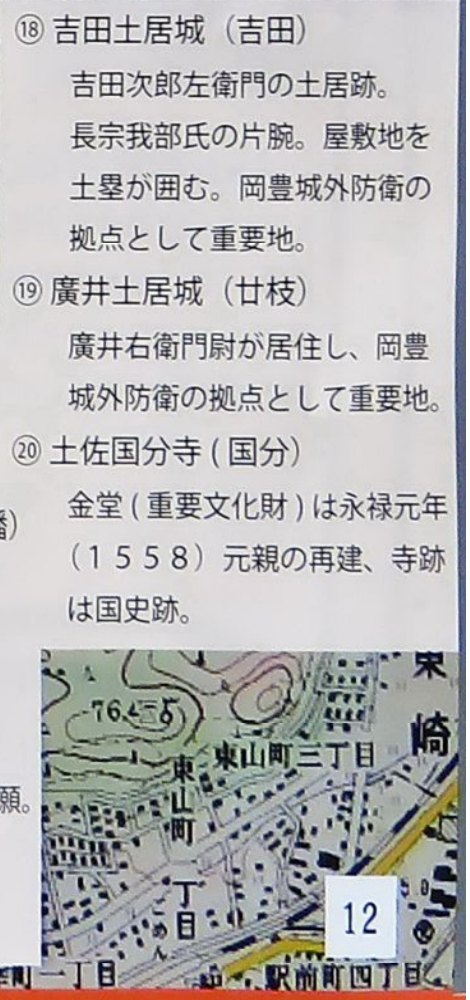
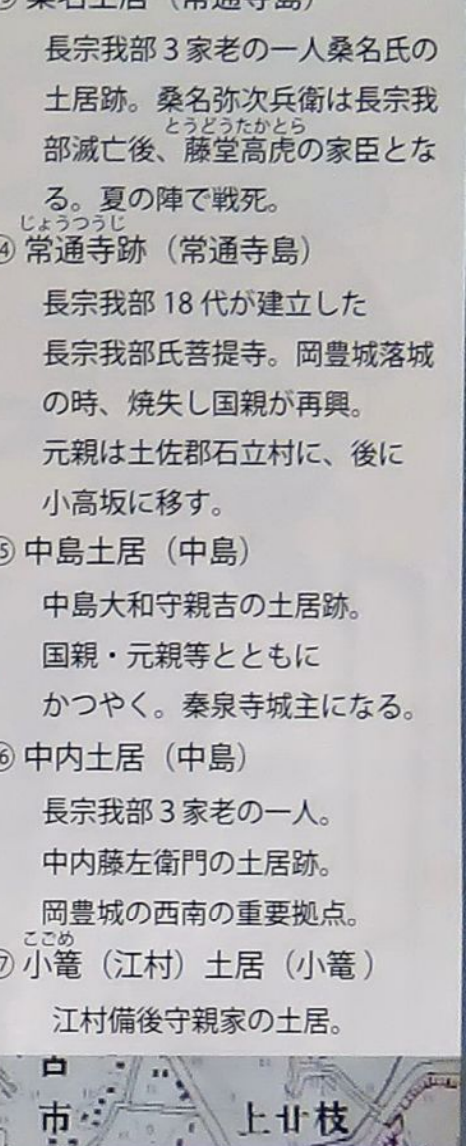
㉒ 伝元親夫人墓=水心様 (八幡)

㉓ 定林寺 (定林寺)

岡豊村にたくさんある
寺院の一つ。

㉔ 岡豊別宮八幡宮 (八幡)

元親は出陣には常に戦勝を祈願。
出陣の盃「百足蝶蜂漆絵椀」
は有名。





たんけん まとめ

岡豊には、およそ2万年前の旧石器時代から人が住んでいました。土器も知らず、小さな家族のような小さな集りで生活していた時代でした。

次の縄文時代になっても人々はこのあたりに住み続けています。人々が住み続けたということは、岡豊が人々が住むのに最高の場所であったということです。

4世紀中頃になると長畝古墳ができています。古墳は有力者のお墓です。岡豊にたくさん古墳があることは、このふきんのどこよりも早く開かれた土地で有力者もたくさんいたでしょうこです。

土佐の3大古墳の一つとされる「小蓮古墳」(6世紀中頃)があります。大きな石で築かれた円墳です。この辺りでも最高の力をもった首長の墓であったでしょう。

標高125mの尾根に22の古墳がかたまってある舟岩古墳群があります。これは「個人の墓」ではなく、「家族の墓」の性格をもった古墳群です。高知の古墳群の代表的なものです。

長宗我部元親のころ、高知県にお城は700ヶ所をこえるほどありました。元親はそれらを次々に攻めおとし、土佐を一つにまとめました。さらに四国も領土にしようとしたが、豊臣秀吉に敗れました。その活動の中心になったお城が岡豊城です。

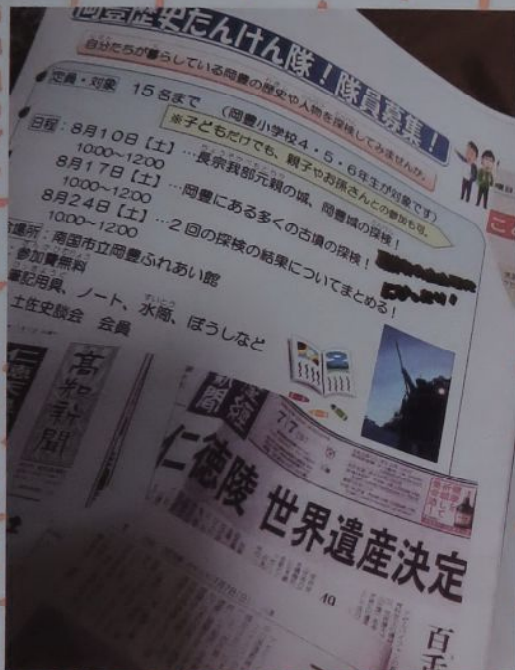
平成19年7月には国史跡になり、発掘された詰、詰下段、三ノ段からは礎石建物跡や、たくさんの遺物といっしょに、「天正3年」(1575)の文字の読める丸瓦なども出土しました。岡豊は中世も人々の暮らしと文化の中心地でもありました。



私たち住んでいる岡豊がこんなに早くから開けたところであったことを知ってほこりに
思いました。まだまだ知らない遺跡もたくさんあります。そんなところを探検し、
どんな遺跡で、そのころの人たちがどんな暮らしをしていたか、発掘された道具など
からたんけんを深めたいと思います。

また長宗我部時代のお城の下に住んでいた人たち、元親の家来や、商人や百姓たちは
どんな所に住み、どんな暮らしをしていたのか。いくさの時はどうなっただろう。

これからいろいろたんけんして、自分たちの住んでいるところの歴史を知って
いきたいと思います。



・・・協力していただいた方・・・

南国市立岡豊小学校
南国市立岡豊ふれあい館
高知県立歴史民俗資料館

南国市まほろぼ地区カルチャーガイド

村上隆夫さん

とくべつ出演 もとちか君



発行 令和2年3月31日

岡豊歴史たんけん

発行人 土佐史談会





「長宗我部元親飛翔之像 原画」

岡豊歴史たんけん

Onamae
おなまえ

